

## 付編 常呂実習施設 平成 19 年度（2007 年度）の活動記録

### (1) 活動の概要

本年度は、東京大学文学部が初めて常呂町で発掘調査を開始した昭和 32（1957）年からちょうど 50 年が経過した、節目の年であった。この半世紀にわたる歩みを総括し未来を展望すべく、人文社会系研究科と北見市・北見市教育委員会は本年度の文学部常呂公開講座を「東京大学常呂遺跡発掘 50 周年記念」と銘打ち、記念行事として開催した。折しも本年度 9 月、北見市は北海道・標津町と共同で、史跡常呂遺跡を標津遺跡群とともに国内の世界遺産暫定一覧表へ記載すべく文化庁へ提案を行ったのであるが、今回の公開講座ではその提案を受けて「世界遺産と常呂遺跡」というテーマが設定された。このテーマを受けて今回の講座では歴代の実習施設関係者が一堂に会するシンポジウムが行われ、これまでの研究成果や地域連携の総括がなされるとともに、未来に向けての新たな課題が設定された。この公開講座については、常呂実習施設研究報告第 5 集『第 11 回東京大学文学部常呂公開講座 世界遺産と常呂遺跡』（本書）として報告書が刊行される。

組織体制では、学校教育法の改正により、本施設の助教授および助手ポストもそれぞれ准教授・助教へと職階の変更が行われた。また 4 月 1 日付で高橋健（前・日本学術振興会特別研究員 PD）が助教に就任した。昨年度 3 月 31 日付で任期満了となった福田正宏・前助手は、人文社会系研究科の学術支援研究員として本郷の考古学研究室で勤務することになった。なお、福田助手はその後、本年度 10 月に東北芸術工科大学東北文化研究センター研究員（PD）に就任している。

研究活動に関しては以下の研究助成を受けた。熊木が研究代表者となったのは、科学研究費補助金基盤研究（B）「北東アジア史からみた中世アイヌ文化形成過程の考古学的研究」、科学研究費補助金特別研究促進費「サハリン中世遺跡のデータベース作成」、平和中島財団アジア地域重点学術研究助成「東シベリアとアムール下流域との先史狩猟採集民間にみられる交渉関係史の解明」、三菱財団人文科学研究助成「紀元前一千世紀における間宮海峡先史文化の研究」の 4 課題である。ほかに、高橋が研究代表者となって科学研究費補助金若手研究・スタートアップ「環オホーツク海・環ベーリング海地域における海獣狩猟文化の成立・変容過程の研究」の助成を受けたほか、考古学研究室の大貫静夫教授を代表とする科学研究費「東北アジアにおける定着的狩猟採集社会の形成および変容過程の研究」に熊木・高橋が分担者として加わった。これらの課題の研究計画を軸として北海道・東京・ロシア極東・アラスカなどで調査研究を実施し、それらの成果の一部として常呂実習施設研究報告第 4 集『サハリン中世遺跡のデータベース作成』を刊行した。また、科学研究費補助金基盤研究（B）「日本列島北部の更新世 / 完新世移行期における居住形態と文化形成に関する研究」（研究代表者：佐藤宏之 東京大学教授）には高橋が、札幌学院大学研究促進奨励金「続縄文文化・擦文文化の暦年代研究」（研究代表者：臼杵勲 札幌学院大学教授）には熊木が研究協力者として協力し、発掘調査や資料調査に参加している。

夏の発掘調査実習である「野外考古学Ⅱ」では、平成 15（2003）年度より調査継続中のトコロチャシ跡遺跡跡整備事業に伴う発掘調査を、北見市教育委員会と連携しながら今年度も実施した。博物館学実習も昨年度と同様に実施され、同実習 A では北見市教育委員会が実施している、ところ遺跡の森復元竪穴住居修復作業に協力した。

### (2) 実習

野外考古学Ⅱ

開講期間

平成 19 年 8 月 20 日～9 月 3 日

調査遺跡 受講者等	トコロチャシ跡遺跡オホーツク地点（史跡常呂遺跡） E～Hトレンチ 学部生 7 名・大学院生 3 名（TA 1 名を含む）・当施設教員 2 名・考古学研 究室教員 2 名・北見市教育委員会 2 名・その他研究者 2 名・見学者 27 名
博物館学実習 A	
開講期間	平成 19 年 7 月 22 日～7 月 30 日（7 月 31 日朝解散）
実習内容	資料陳列館展示替え・ところ遺跡の森復元竪穴住居修復作業・近隣の博物 館巡検など
受講者等	学部生 6 名・大学院生 2 名（TA 1 名を含む）
博物館学実習 B	
開講期間	平成 19 年 9 月 4 日～9 月 13 日（9 月 14 日朝解散）
実習内容	資料陳列館展示替え・考古資料整理の方法・近隣の博物館巡検など
受講者等	学部生 7 名

### (3) 調査研究活動

#### ①研究助成金（下線は当施設教員、以下同じ）

平成 19 年度（～平成 22 年度） 科学研究費補助金 基盤研究（B）

「北東アジア史からみた中世アイヌ文化形成過程の考古学的研究」（課題番号：19320124）

研究代表者：熊木俊朗 研究分担者：大貫静夫、高橋 健

平成 19 年度 科学研究費補助金 特別研究促進費

「サハリン中世遺跡のデータベース作成」（課題番号：19900105）

研究代表者：熊木俊朗 研究分担者：大貫静夫、高橋 健

平成 19 年度 科学研究費補助金 若手研究・スタートアップ

「環オホーツク海・環ベーリング海地域における海獣狩猟文化の成立・変容過程の研究」  
（課題番号：19820008）

研究代表者：高橋 健

平成 19 年度 平和中島財団アジア地域重点学術研究助成

「東シベリアとアムール下流域との先史狩猟採集民間にみられる交渉関係史の解明」

研究代表者：熊木俊朗 共同研究者：大貫静夫、福田正宏、佐藤宏之、臼杵勲、田口洋美、  
Shevkomud, I. Ya.、Vasilevskii, A. A.、Kositsina, S. F.

平成 19 年度 三菱財団人文科学研究助成

「紀元一千年紀における間宮海峡先史文化の研究 - 日本列島と大陸を繋ぐ「北回りの交流」  
の成立過程 -」

研究代表者：熊木俊朗 協同研究者：高橋 健、福田正宏

平成 19 年度 札幌学院大学研究促進奨励金

「続縄文文化・擦文文化の暦年代研究」

研究代表者：臼杵 勲 研究分担者：鶴丸俊明、坂本 稔、研究協力者：熊木俊朗、禰宜田佳男、  
榊田朋広

平成 19 年度（～平成 20 年度） 科学研究費補助金 基盤研究（B）

「日本列島北部の更新世 / 完新世移行期における居住形態と文化形成に関する研究」

研究代表者：佐藤宏之 研究分担者：辻誠一郎、安斎正人、吉田邦夫 研究協力者：高橋 健

## ②主な調査

ロシア連邦ハバロフスク地方ウリチ地区 マラヤガバン遺跡 発掘調査（ハバロフスク州郷土誌博物館との共同調査）

調査期間：平成 19 年 6 月 25 日～7 月 16 日

参加者（日本側）：福田正宏、熊木俊朗、高橋 健、内田和典、森先一貴、國木田大  
ロシア連邦サハリン州南部東海岸 遺跡踏査・測量調査（サハリン総合大学との共同調査）

調査期間：平成 19 年 8 月 5 日～12 日

参加者：熊木俊朗、高橋 健、榊田朋広

トコロチャシ跡遺跡オホーツク地点 史跡整備事業に伴う発掘調査

調査期間等：前掲のとおり

東京大学総合研究博物館所蔵 千島列島出土考古資料調査（於：東京大学総合研究博物館）

調査期間：平成 19 年 12 月 18 日～20 日

参加者：高橋 健、熊木俊朗、根岸 洋、榊田朋広、森 岬子、石丸あゆみ、高瀬光永

ロシア連邦ハバロフスク地方ウリチ地区 マラヤガバン遺跡 遺物整理作業（於：ハバロフスク州郷土誌博物館）

調査期間：平成 20 年 1 月 18 日～1 月 28 日

参加者（日本側）：大貫静夫、福田正宏、熊木俊朗、高橋 健、内田和典、森先一貴、國木田大

アラスカ大学博物館 セント・ローレンス島出土考古資料調査（アラスカ大学フェアバンクス校）

調査機関：平成 20 年 3 月 3 日～3 月 7 日

参加者：高橋 健

## ③教員による発表論文等

（熊木関連分）（下線は本人、以下同じ）

・著書・論文・調査報告等

2008 年 2 月 熊木俊朗「中世のサハリン」『アジア遊学』第 107 号、98-107 頁。

2008 年 2 月 熊木俊朗「遺跡紹介 セディフ遺跡群」『アジア遊学』第 107 号、128-130 頁。

2008 年 3 月 白杵 勲・熊木俊朗「II-1 測定対象遺跡・試料の概要」『札幌学院大学平成 19 年度研究促進奨励金 続縄文文化・擦文文化の暦年代研究 成果報告書』札幌学院大学人文学部、5-6 頁。

2008 年 3 月 熊木俊朗「II-3 測定結果とその検討」『札幌学院大学平成 19 年度研究促進奨励金 続縄文文化・擦文文化の暦年代研究 成果報告書』札幌学院大学人文学部、15-19 頁。

2008 年 3 月 熊木俊朗「書評 武田 修著『日本の遺跡] 13 常呂遺跡群』『北海道考古学』第 44 輯、53-54 頁。

2008 年 3 月 熊木俊朗・高橋 健編『サハリン中世遺跡のデータベース作成』東京大学常呂実習施設研究報告第 4 集、東京大学常呂実習施設。

・口頭発表

2008 年 1 月 熊木俊朗、佐藤宏之、大貫静夫、高橋 健、榊田朋広、井出靖夫、A. ワシリエフスキー、V. デリューギン、福田正宏「ポスターセッション サハリン中世遺跡の考古学的調査」『公開シンポジウム 中世総合資料学の実践 - 間宮海峡から琉球弧へ』中世総合資料学研究会、106-

107 頁、東洋大学白山キャンパス。

- 2008 年 3 月 福田正宏、I. Shevkomud、大貫静夫、熊木俊朗、高橋 健、森先一貴、國木田大、吉田邦夫、内田和典、S. Kosityna、M. Gorshkov、E. Bochkhareva、佐藤宏之、辻誠一郎、江田真毅、A. Konopatskii「マラヤ・ガバニ遺跡における考古学的調査（2007 年度）」『第 9 回北アジア調査研究報告会』北アジア調査研究報告会実行委員会、30-33 頁、北海道大学。
- 2008 年 3 月 國木田大、吉田邦夫、I. Shevkomud、大貫静夫、熊木俊朗、福田正宏、A. Konopatskii「マラヤ・ガバニ遺跡の年代学的評価（2007 年度）」『第 9 回北アジア調査研究報告会』北アジア調査研究報告会実行委員会、34-37 頁、北海道大学。
- 2008 年 3 月 熊木俊朗、高橋 健、榊田朋広、佐藤宏之、大貫静夫、A. ワシリエフスキー「サハリン南部東海岸における中世遺跡の調査」『第 9 回北アジア調査研究報告会』北アジア調査研究報告会実行委員会、46-49 頁、北海道大学。

（高橋関連分）

・著書・論文・調査報告等

- 2007 年 4 月 高橋 健「燕形銚頭の起源と変遷」『考古学』第 5 号、115-133 頁。
- 2007 年 9 月 高橋 健「山陰地方・西北九州地方の骨角製銚頭について」『古墳時代の海人集団を再検討する：』第 56 回埋蔵文化財研究集会発表要旨集、185-192 頁。
- 2007 年 12 月 高橋 健「北海道沿岸の海獣銚頭」『縄文の考古学』同成社、113-130 頁。
- 2007 年 12 月 高橋 健「東京大学文学部列品室の北方関連資料」『Arctic Circle』65 号、12-13 頁
- 2008 年 3 月 高橋 健『日本列島における銚頭の考古学的研究』北海道出版企画センター。
- 2008 年 3 月 高橋 健「北千島出土の銚頭について」『アイヌ民族・オホーツク文化関連研究論文翻訳集』北地文化研究会、1-7 頁。
- 2008 年 3 月 熊木俊朗・高橋 健編『サハリン中世遺跡のデータベース作成』東京大学常呂実習施設研究報告第 4 集、東京大学常呂実習施設。

・口頭発表

- 2008 年 1 月 熊木俊朗、佐藤宏之、大貫静夫、高橋 健、榊田朋広、井出靖夫、A. ワシリエフスキー、V. デリューギン、福田正宏「ポスターセッション サハリン中世遺跡の考古学的調査」『公開シンポジウム 中世総合資料学の実践 - 間宮海峡から琉球弧へ』中世総合資料学研究会、106-107 頁、東洋大学白山キャンパス。
- 2008 年 3 月 Takahashi, Ken “Harpoon head reprocessing in Okhotsk Culture”. Paper presented at the 35th Annual Meeting of the Alaska Anthropological Association. March 1, 2008, Anchorage, Alaska.
- 2008 年 3 月 佐藤宏之、高橋 健、森先一貴、中村雄紀、國木田大、尾田識好、役重みゆき、赤井文人、山田哲「北海道北見市吉井沢遺跡の発掘調査」第 9 回北アジア調査研究報告会、北海道大学
- 2008 年 3 月 福田正宏、I. Shevkomud、大貫静夫、熊木俊朗、高橋 健、森先一貴、國木田大、吉田邦夫、内田和典、S. Kosityna、M. Gorshkov、E. Bochkhareva、佐藤宏之、辻誠一郎、江田真毅、A. Konopatskii「マラヤ・ガバニ遺跡における考古学的調査（2007 年度）」『第 9 回北アジア調査研究報告会』北アジア調査研究報告会実行委員会、30-33 頁、北海道大学。
- 2008 年 3 月 熊木俊朗、高橋 健、榊田朋広、佐藤宏之、大貫静夫、A. ワシリエフスキー「サハリン南部東海岸における中世遺跡の調査」『第 9 回北アジア調査研究報告会』北アジア調査研究報告会実行委員会、46-49 頁、北海道大学。

#### (4) 教育普及活動

##### ①東京大学常呂遺跡発掘 50 年記念 第 11 回文学部常呂公開講座「世界遺産と常呂遺跡」

- 主催 東京大学文学部・北見市・北見市教育委員会  
開講日時 平成 19 年 11 月 16 日 (① 13:25 ~ 14:25、② 18:30 ~ 21:00)  
プログラム等 ①常呂高校特別講座 (会場：常呂高等学校体育館)  
「なぜ原爆ドームが世界遺産なのか? - 世界遺産制度の現状と課題」(講師：木下直之 東京大学大学院人文社会系研究科教授)  
②常呂講座 (会場：北見市常呂町多目的研修センター)  
基調講演「世界遺産について - 常呂遺跡の課題-」(講師：藤本 強 東京大学名誉教授)  
シンポジウム第一部「世界遺産の実例報告」  
第 1 講「私の見た世界遺産」(講師：菊池徹夫 早稲田大学文学学術院教授)  
第 2 講「中国の世界遺産 - 周口店・殷墟・秦始皇帝陵など-」(講師：飯島武次 駒澤大学文学部教授)  
シンポジウム第二部「常呂遺跡の学術的価値」  
第 1 講「常呂遺跡の調査研究史」(講師：宇田川洋 東京大学名誉教授)  
第 2 講「生業からみた常呂遺跡の意義」(講師：新美倫子 名古屋大学博物館准教授)  
第 3 講「新しい史跡公園の整備に向けて」(講師：熊木俊朗 東京大学大学院人文社会系研究科准教授)

東大関係出席者：立花政夫 (人文社会系研究科長)・井上正仁 (東京大学法学部長)・清水孝雄 (東京大学医学部長)・木下直之・大貫静夫 (シンポジウム第一部司会)・佐藤宏之 (同第二部司会)・高橋 健・根岸邦次 (文学部事務長)・ほか文学部事務室職員 2 名

##### ②東京大学常呂遺跡発掘 50 年記念 特別展「世界遺産と常呂遺跡」

- 主催 東京大学常呂実習施設・北見市教育委員会  
開催期間 平成 19 年 11 月 1 日～12 月 3 日  
会場 北見市常呂町多目的センターロビー  
展示内容 パネル展 (A1 サイズパネル 14 枚) 世界遺産の概略・史跡常呂遺跡と標津遺跡群の説明・常呂実習施設の歴史  
史跡常呂遺跡出土遺物展示 (オホーツク土器など)

##### ③常呂高校文化講演会

- 開催日時 平成 19 年 12 月 13 日 13:30 ~ 14:40  
会場 常呂高校体育館 (常呂高校全在校生対象)  
プログラム等 「オホーツク文化とは何か - 常呂の遺跡から北方をみる」(講師：熊木俊朗 東京大学大学院人文社会系研究科准教授)

##### 非常勤講師・委員委嘱等

(熊木関連分)

- 北見市文化財審議委員会委員 (平成 18 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 4 日)  
北見市常呂自治区社会教育推進会議委員 (平成 18 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)  
常呂まちづくり協議会委員 (平成 18 年 6 月 14 日～平成 20 年 6 月 13 日)  
北見市史跡整備専門委員 (平成 19 年 12 月 14 日～平成 20 年 3 月 31 日)

北海道考古学会会誌編集委員（平成19年度～平成20年度）  
 網走管内博物館連絡協議会監事（平成19年度～平成20年度）

(5) 実習施設利用状況

①研究者の主な受入状況（本学考古学研究室教員・学生・大学院生による研究は除く）

平成19年5月 デリューギン・ワレリー（サハリン国立大学・研究員）「擦文・アイヌ文化関連の文献調査」

平成19年8月 豊原熙司（文化財サポート㈱）「常呂地域における黒曜石の産地推定研究に関わる資料調査」

平成20年2月 ジェームズ・テイラー（ワシントン大学・博士課程大学院生）「オホーツク文化遺跡出土資料の安定同位体分析」

平成20年3月 柳澤清一（千葉大学・教授）「常呂資料陳列館所蔵資料の調査」

平成20年3月 天野哲也（北海道大学・教授）・王培新（吉林大学）「オホーツク文化と靺鞨文化の比較研究」

②学生宿舎稼働状況（実習含む。延べ宿泊数）

4月：0	5月：5	6月：0	7月：73
8月：134	9月：135	10月：8	11月：18
12月：2	1月：0	2月：40	3月：7
合計：422泊			

③北海文化研究常呂資料陳列館入館者数（入館者名簿に基づく人数）

4月：24	5月：37	6月：69	7月：66
8月：85	9月：36	10月：38	11月：74
12月：5	1月：1	2月：8	3月：8
合計：451名			

④資料貸出等

写真掲載『日本の歴史 第1巻 列島創世記』（松木武彦著、小学館、2007年）

トコロ貝塚出土北筒式土器写真1点（貸出）

「常呂遺跡 世界文化遺産を目指して」企画展（北網圏北見文化センター）

展示パネル、土器・石器・骨角器・金属器ほか（貸出）

(6) 組織

(北海文化研究常呂実習施設)

北海文化研究常呂実習施設長 立花政夫（併任 研究科長・学部長）

北海文化研究常呂実習施設運営委員会 委員6名（委員長・副委員長各1名、委員4名）

准教授 熊木俊朗

助教 高橋 健

有期雇用職員 2名

(北海文化研究常呂資料陳列館)

館長 立花政夫（併任 研究科長・学部長）

（文責：熊木俊朗）

---

---

東京大学常呂実習施設研究報告 第5集

世界遺産と常呂遺跡

---

2008年7月31日

編集 熊木俊朗・高橋 健

発行 東京大学大学院人文社会系研究科

附属北海文化研究常呂実習施設

北海道北見市常呂町栄浦 384

---

---